

MATSU DOING 2050

わたしがつくる！
まつどのみらい

[かわら版] #3



第3回まちづくりワークショップが 開催されました！

第3回目のワークショップが開催されました。「新拠点ゾーンの空間について考える・新しいサービスを提供する施設(市庁舎・文化施設・子育て施設など)への期待」というテーマの元、活発な議論が行われました。

日時=2019年11月23日13時30分-18時00分

会場=松戸商工会議所 大会議室 | 参加者=58名

内田雅敏 | うちだ まさとし
雅経営サポート事務所

宮城俊作 | みやぎ しゅんさく
東京大学大学院工学系研究科教授

横張真 | よこはり まこと
東京大学大学院工学系研究科教授

横張真氏による挨拶

はじめに横張真氏より挨拶がありました。従来の箱ありきの議論ではなく、このWSでは常に「松戸をどんなまちにしたいか。そのためにどんな機能が必要か。」を軸に話し合いをしてきた。今回は前半WSの最終回として議論を結びつけて欲しいと述べられました。

内田雅敏氏による レクチャー



次に雅経営サポート事務所の内田雅敏氏より次世代の働き方の観点から「松戸スタートアップオフィスでの取り組み」についてのレクチャーがありました。松戸スタートアップオフィスは松戸市の施策により2019年4月にスタートした起業創業支援施設です。コワーキングスペースも併設されており、主にIT事業者などが入居しています。アーティストとも連携し、オフィス内の壁面や家具など随所にアートを展示しています。松戸スタートアップオフィスの起業支援に対する考え方は(1)起業でまちを元気に(2)市民の自己実現の手段として起業をあたりまえに 働き方を考えることで未来の暮らしかたを考えるとという姿勢が共有されました。

宮城俊作氏による レクチャー



続いて宮城俊作氏よりこれからの松戸を考える参考として「国有地のあり方とパブリックスペース」についてレクチャーがありました。松戸駅東口側の国有地は、駅が近く公園があり高台で通過交通が少ない優れた住環境であるため、民間事業者が取得した場合には高層マンションが建つ条件が揃っている。一方でまとまった公共施設整備が可能で、2050年の松戸のあり様を左右する場であり、防災・減災・復旧の拠点となりうる場所を誰が使える場にするか考えるべき。次にパブリックスペースを「しつらえる」10の心得として国内外の事例を紹介いただきました。「うけつぐ/とりのぞく/こころみる/おきかえる/かさねる/つくりかえる/つなぐ/たいらにする/つかいこなす/そなえる」他にもたくさん考えられる。パブリックスペースは屋内・屋外、行政・民間など様々なしつらえが考えられるが、市民が主体となって関わること、具体的なアクティビティを考えてWSに取り組んで欲しいとお話いただきました。



[https://
www.facebook.com/
MATSUDOING2050/](https://www.facebook.com/MATSUDOING2050/)



1. グループワーク[1]
 2. ディスカッション
- 2つのグループに分かれてグループワークのまとめを発表し、意見交換を行いました。
3. グループワーク[2]



1班 | みんながつながり主役になれるまち

松戸駅周辺の各所を東京ディズニーランドのエリアに例えてまちを盛り上げる案を提案。さらに市職員なども昼食を取れるサラ飯ランドというオリジナルエリアを加えた。行政が考えること=行政と市民の話し合いの場を常設、駅周辺を徒歩で回れるように交通整理、エリア名称のPR。市民が考えること=サラ飯ランドのPRなど。

2班 | 人の笑顔が見えるまち

車中心のまちづくりからランニングや川を楽しむなど様々なアクティビティを楽しめるまちづくりへ。治安の向上(街灯の増設)、歩きやすい道・空間が必要。行政が考えること=手続きの簡略化。市民が考えること=責任を持って使用する意識作り。

3班 | 帰るとホッとするまち まつど

ホッとするまちの要素として松戸横丁(お酒が飲める)、おしゃれゾーン(若者向けショップ)、歴史を感じるエリア、河川敷にスポーツ・アスレチック等をつくる。それぞれのエリアに緑を増やし、つなげる。近隣大学

とコラボも必要。行政が考えること=緑を増やすために道幅を広げる。市民が考えること=塀や屋上の緑化、クリーン活動。

4班 | 「みこし」がつなげるあかるいまつど

魅力ある拠点を周遊できるまちへ。北西側：文化ゾーン、スポーツ。南西側：歴史エリア。行政と市民が一緒に議論する場に企業が入ることでパークマネジメントやエリアマネジメントに繋げる。

5班 | 文化でつながるまつど、点から線へ、そして面へ ~ひと・まち・こころのネットワーク~

現イトーヨーカドー周辺を文化拠点として整備。大学と協力し新拠点ゾーン+中央公園を一括で防災拠点に。東口・西口を繋げるためにエスカレーターの整備を提案。旧伊勢丹松戸店周辺を商業エリア、図書館前を第2商業エリアに。江戸川を国と一緒にスポーツエリアに。

6班 | 求めるものがそろうまち松戸

西口・東口は丘と川のエリアに分けられる。それぞれを空間やテーマで対比させながらつなぐことで人の行き来を作る。(例)川遊びのためのカヌー店を丘の上につくり、カヌーを持ってまちを歩くアクティビティを作る。

7班 | 誰もが余白に描きこめるまち

東口：みんなの物語が生まれる施設/空間を整備。防災拠点としても活用。戸定が丘歴史公園まで緑の道でつなぐ。西口：江戸川が決壊した際に備えた減災機能施設を整備。普段は広場。江戸川上流をスポーツエリア、下流を文化エリアとして多文化交流を進めたい。東口・西口の役割を明確化したうえで東西の交通網も整備。市と市民の交流の

場、イベント開催などが必要。

8班 | 極上のやど MATSUDO

住んでる人が居心地が良く、次世代に向けて外国人・多様性を受け入れてくれるまちへ。まち全体のゾーニングを明確にすることを提案。

東側：【歴史や四季を味わうエリア】戸定邸、千葉大学。「まちのえき」などをつくる。【文化芸術エリア】行政も文化エリアに含み行政施設に眺望台などを設置。

西側：【商業エリア】ファッション、スポーツ、食の民間事業を育てる。

未来にむけてできること=「情報発信」



内田氏コメント

市民の皆さんが松戸のことを熱心に考えていて凄い。自己実現の為に自分達が何ができるか考えることが最も大事。

秋田氏コメント

どんどん良くなって楽しくなっている。市役所の方への意見や自分たちがやりたいことへの意見が沢山出た。

宮城氏コメント

活発な議論を聞きとて楽しかった。かつて住んでいた松戸のまちの素晴らしさをあらためて確認できた。

横張氏コメント

行政と市民が一緒になって考えることがこれからも必要だという意見が出た。こうした形でやってよかった。今の世の中は物事の境界線が変化している。白黒の対立構図ではなく、あえて線を引かないでみんなで一緒になって考える価値を4回目以降も確認して行きたい。



次回は12月14日(土)
13:30-17:30
松戸市中央保健福祉
センターで開催します。